

その治療法は
本当に
効くのか

行つて、見て、聞いた

連載第十回

ニッポンの最先端医療

伊藤隼也

医療ジャーナリスト・写真家

今回のテーマ

虚血性心疾患

好みの異性に、ドキドキ、
思い出が記憶の彼方へ遠のくと、
今度は、ドキドキ、そのものの一
喜一憂することになる——日本人
の死因の第2位を占める「心疾患」
のことである。特に、心筋に栄養
を送る冠動脈が細くなって起こる
「虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）」
は、現代人が注意すべき心疾患の
筆頭に挙げられる。

「この頃、階段を駆け上がると動
悸がして胸が苦しい……」

こんなときは狭心症に要注意。
放置すると命を落とす原因にもな
りかねない。主な原因は動脈硬化
で、高血圧や高脂血症、糖尿病、
さらには喫煙や肥満なども危険因
子となる。

最近、虚血性心疾患の検査とし

て「心臓CT検査」がにわかには脚
光を浴びているが、この検査の実
力を確かめるべく、6000例以
上の実績を持つ群馬県高崎市の
「高瀬クリニック」を訪れた。

ベ

に、ドーナツ形の巨大な機
器が鎮座している。これが「64列
マルチスライスCT」だ。64列の
検出器（画像の撮影装置）を備え
ており、一回の検査で撮れる40

- 狭心症は心筋に栄養を送る冠動脈の狭窄によって起こる
- 歩き始めや坂道で胸部に締めつけられるような痛みを感じる
- 深夜や早朝に胸が痛くなって目が覚める
- 胸ばかりでなく歯痛や、左肩、左腕に放散痛が起こる場合も
- 「マルチスライスCT」は「プラーク」も診断可能

0枚ほどの画像を組み合わせ、心
臓とそれを取り巻く冠動脈の3次
元画像を生成することができ
る（上写真）。近藤武医師が、患者に
検査の手順を説明する。

「撮影するときには、機械が「息
を止めてください」と言いますか
ら、軽く息を吸って15秒だけ息を
止めてください。じゃあ練習し
てみましょうか……。ハイ、そう。
これを3度繰り返して、4度目が
本番です」

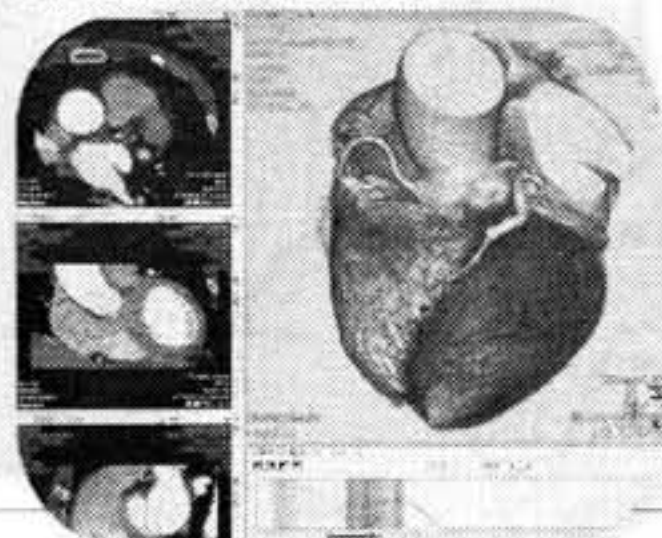
3度は、息止めの練習と心臓
の位置などの情報を集めるテス
ト。こうした準備も含め、患者が
検査室に入室してから退室するま
での時間はおよそ15分。その後、
高精度な3次元画像が15分ほどで
完成する。この検査を受けるのに
1ヵ月待ちの医療機関もあるが、

ここでは予約なしでも受けられ
る。命にかかわることもある病気
だけに、患者としては心強い。

これまで、狭心症や心筋梗塞の
検査といえば「心臓カテーテル検
査」が常識だった。手首やそけい
部の動脈から挿入した細い管（カ
テーテル）を心臓の冠動脈の入り
口まで通し、造影剤を流しながら
X線撮影するのだ。局部麻酔で行
う簡単な検査だが、出血のリスク
などがあり入院が必要。気軽に受
けられる検査ではない。

一方、マルチスライスCT検査
は日帰りが可能で、痛みや出血も
ない。診断上のメリットについて
近藤医師はこう説明する。
「マルチスライスCT検査で虚血
性心疾患がないと診断された場
合、その後心臓カテーテル検査で

（左）撮影の前に、息止めの指
導をする近藤医師。丁寧な準備
が信頼性の高い検査結果をもら
たす（下）モニターに表示され
た高精度な3次元画像



いとうしゅんや／患者中心の医療実現のために、国内外を問わず数多くの医療現場取材。「現場にこそ真実がある！」と医療改革のため、多くの問題提起をする。著書に「最強ドクターの奇跡」など

今週取材した 医師・病院



高瀬クリニック

循環器科

近藤 武 医師

住所／群馬県高崎市

南大類町885-2

電話／027-353-1156

このほかに 「マルチスライスCT」 を行っている病院



大和成和病院

循環器科

住所／神奈川県大和市

南林間9-8-2

電話／046-278-3911

名古屋ハートセンター

循環器内科

住所／愛知県名古屋市

東区砂田橋1-1-14

電話／052-719-0810

豊橋ハートセンター

循環器内科

住所／愛知県豊橋市

大山町五分取21-1

電話／0532-37-3377

桜橋渡辺病院

循環器内科

住所／大阪市北区梅田

2-4-32

電話／06-6341-8651

新古賀病院

循環器科

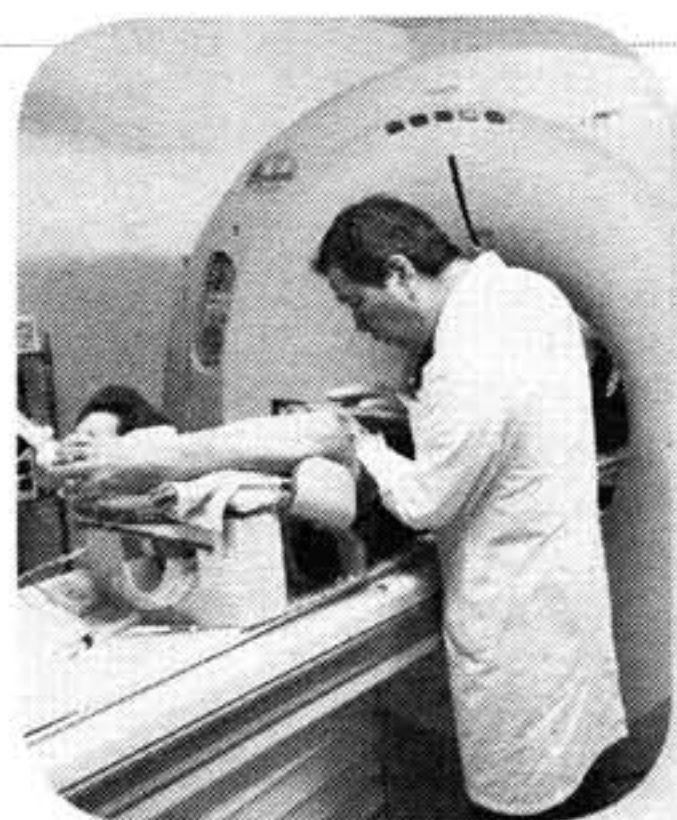
住所／福岡県久留米市

天神町120

電話／0942-38-2222

も97〜100%の確率で病変は認められないというデータがありま
す。虚血性心疾患の疑いがある患
者さんから、病気の可能性がない
人を除外できるわけです」
さらに、この検査ではプラーク
(血管に溜まるコレステロールの塊)
の状態を鮮明な画像で確認でき
る。プラークが破裂すると、最悪
の場合は急性心筋梗塞を引き起こ
す。心臓カテテル検査では見つ
からない病気の危険性を見つけれ
る意味でも非常に有益だ。
一見いいことづくめのCT検査
だが、リスクもゼロではない。そ
の代表が被曝の問題だ。人体が基
準値以上の放射線を浴びると、が
んや白血病などの危険性が高まる
といわれている。
高瀬クリニックでは、放射線を
瞬間的に当てて撮影する「フラッ
シユスキャン」という方式をとる
ことで連続照射に比較して、被曝
量を半減させている。
「たしかにメリットがあれば、

少々の被曝のリスクは正当化され
るべきです。心電図のデータから
狭心症や心筋梗塞が疑われる人、
糖尿病や高脂血症などの危険因子
を持っている人などにとっては、
この被曝量をもってしても大きな
メリットがあるといえるのではな
いでしょうか」(近藤医師)
ただし、相手は休むことなく動
き続ける心臓だ。一瞬でブレのな
い画像を撮影するためには、心拍
数を60以下に下げ、心臓の動きの
少ない時間を確実に捉えなければ
ならないという。近藤医師は、前
投薬や酸素吸入を実施し、それで



も心拍数が下がらない場合は、心
拍の上昇を抑える「βブロッカー」
を注射する。こうした細やかな対
応は、循環器内科の医師が検査に
立ち会うからこそ可能なことだ。
放射線科の医師がCT検査のイニ
シアチブをとる大病院では、なか
なかこうはいかない。
同 病院では'05年に64列マルチ
スライスCTを導入した
が、当初から診断に耐えうる質の
よい画像をいつでも撮れたわけ
はなかった。こうした方法を編み
出すまでには、半年以上もの試行
錯誤の時間を要したという。近藤
医師と検査法の確立に取り組んだ
高瀬真一医師(院長)は、
「質の高い検査ができれば、必ず
患者さんに支持されると確信して
いました」
と当時を振り返る。
ただし、この検査は機器さえあ
ればどこでも安全に受けられる
わけではない。一部の病院は「心
臓ドック」と称して、健診にマル

チスライスCT検査を取り入れて
いる。その是非について議論が分
かれているが、近藤医師はこう断
言する。
「被曝量を減らす努力をしない医
療機関ではやるべきではありません
。仮に健診に使うなら、微量の
被曝で済む320列などのさらに
高性能なCTが必要ですね」
320列マルチスライスCTが
ほとんど出回っていない現状で
は、健診でマルチスライスCTを
使用するのには時期尚早かもしれな
い。まずは心電図や採血など、リ
スクゼロの丁寧なスクリーニング
が大切だ。リスクを最小限に抑え
ながらこの検査を受けるために
は、「検査に循環器内科医が立ち
会う」「心拍数を下げる工夫をし
ている」など、たしかに検査技術
を持った医療機関を見極めたい。
最新鋭機器を使った検査だからと
いつて、むやみに受ければよいわ
けではない。甘言にのって損をす
るのは患者自身なのだ。